アカシジミの擬死

中 郡 徹[1)]

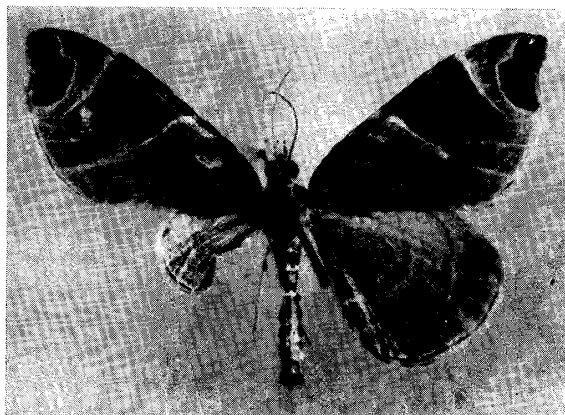
1962年5月私は初めてアカシジミを大阪府下の能勢で採った。その時に採り逃したアカシジミが，クリの葉上にとまり，そのまま横倒しになる動作を二例について観察した。ゼフィルス類の採集をはじめたばかりの頃で，このことをあまり気にもしていなかったが，3年前（1964年6月14日）また，能勢でアカシジミについて同じ動作を観察した。気をつけるようにしたせいか昨年（1965年5月29日）京都府下の八幡でも同様の習性が観察できた。この時は，ほとんど落下したという感じであった。以上の観察の時刻はすべて午後3時前後（1964年のみ6月，ほかは全部5月）で♂，♀の区別はつけられなかった。アカシジミのこのような習性はこれまで記録がないように思うので報告します。発表にあたり数多くの御教示を頂いた緒方正美，白水隆両先生に深く感謝致します。

ウストビモンナミシャクの一畸型

坂 部 元 宏[2)]

1965年6月22日，三重県員弁郡藤原村にある藤原岳中腹で蛾類の採集を行った際，ウストビモンナミシャク (*Lygris ledereri inurbana* Prout)（シャクガ科ナミシャク亜科）の一畸型を採集した。本種は三重県では比較的北部の山地で採集されるが，その例はあまり多くないようである。

当日夜11時すぎ，本個体は青色螢光灯へ飛来し，蝶の静止の時のように翅をたててとまった。ナミシャクにはこのように翅をたてて静止する種類もあるので，何かを見るため近づいたところ本種であり，左後翅が小さいことも分った。そこで再び飛ばしてみると仲々活発に飛び回り，他のナミシャクなどと比べ特に飛翔力が劣るようには思えなかった。本個体の静止状態が，異常な翅のためかどうかについては，筆者の採集例が少なくかつ不注意のため明らかでない。

この畸型は，体長15mm，前翅長19mm，右後翅(正常な方)長1.35mm，左後翅長8mm，右後翅巾10.5mm，左後翅巾5mmで，左後翅は全体として小形でそのもようも写真のように右側をそのまま小さくしたもののようである。左後翅後縁の小さな傷がこの畸型の原因のようである。

ウストビモンナミシャクの畸型

茨城県で初発見のシルビヤシジミ

塩 田 正 寛[3)]

シルビヤシジミの国内における分布は第1図に示したようである（安江,1957)。分布の北限は田中（1963）によれば栃木県塩谷郡塩谷村佐貫観音（39°40′30″N）である。茨城県においては今まで採集されていなかった。今回，私の所へ県内の同好者からシルビヤシジミ

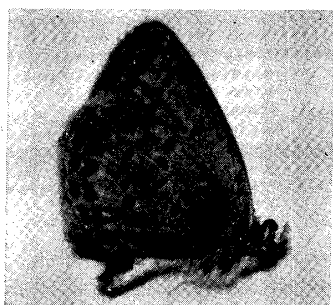
第1図 シルビヤシジミの分布（安江，1957による）
矢印は新産地の茨城県勝田町を示す

1) 大阪府寝屋川市成美町 1—26
2) 三重県度会郡大宮町大字滝原 275
3) 茨城県日立市白銀町3丁目6番 15号

らしい標本が送られてきた。さっそく九州大学の白水隆博士に標本の同定をお願いしたところ，まちがいなくシルビヤシジミであるとの御返事をいただいたので，ここに採集者に代って報告します。

採集地 茨城県勝田市石川町（36°20′S）

採集日 1965年8月下旬 1♂

採集者 米田 透

第2図 茨城県勝田市産のシルビヤシジミ（♂裏面）

文 献

1) 安江安宣（1957）：シルビアシジミ *Zizina otis emelina* の分布とその食草について考えること，すずむし，7：19～18.

2) 田中正ら（1963）：栃木県の蝶，インセクト，14（1）：30～31.

キリシマミドリシジミの新産地

今 村 功[1)]

A new habitat of *Chrysozephyrus ataxus kirishimaensis* Okajima

By Isao Imamura

キリシマミドリシジミの本州における産地としては，鳥取・和歌山・三重・滋賀・静岡の各県が知られているが，1966年夏に岐阜県からも採集された。岐阜県からは初めての記録であるのでここに報告する。

採集地・岐阜県養老郡上石津村

採集日・1966年8月6日（1♀），8月7日（1♂），8月12日（1♀）。

採集者・畑中 繁氏

私も8月25日に当地を訪れたが，本種の最盛期はすでにかなり過ぎていたにもかかわらず，多くの飛翔が目撃され，また卵も多数産付されているのを確認した。当地は，本種の多産地として有名な三重県の御在所岳と同じ鈴鹿山系の北端にあり，付近にはかなり多くのアカガシが自生している。しかし谷は小さく，またアカガシもさかんに伐採されているので，当地における本種の保護に一考を要すると思う。なお当地にて採集された標本は，いずれも畑中氏が保存している。また発表にさいし種々御教示下さいました白水隆先生に深謝致します。

1) 三重県桑名市立花町1丁目 22ノ12

第17巻第1・2号の訂正

P. 38の下より3行目，およびP. 39の表の下より2行目のエゾシロシタバをコシロシタバに訂正。

P. 49の「神戸市のミヤマカラスアゲハ」の著者名の高崎寿郎を高橋寿郎に訂正。

編 集 後 記

予定より遅れて長らくお待たせしましたが，第19巻第3・4号をお届けします。これでやっと昭和41年度分の会誌の発行が完了したことになります。次号第18巻第1・2号は10月発行の予定で，秋の総会の前に会員の皆様にお届けしたく思っております。第18巻第3・4号は12月発行の予定にしておりますが，この分の原稿はありませんので，ふるってご投稿を期待します。ときに縦書きの原稿がありますが，原稿は必ず横書きにして下さい。

（白 水 隆）

日本鱗翅学会会報"蝶と蛾"
第17巻 第3・4号
日 本 鱗 翅 学 会 発 行
本部 大阪市東区今橋3丁目18 緒方病院内
振替口座 京都15914番 電話大阪(231)3255代
編集者 白水 隆（福岡市六本松4丁目 九大教養部生物学教室）
印刷所 西日本綜合印刷株式会社
1967年8月15日発行

TYŌ TO GA
(Trans. Lep. Soc. Jap.)
Vol. 17, No. 3 & 4
published by
The Lepidopterological Society of Japan
c/o OGATA HOSPITAL, Imabashi 3-18,
Higashiku, Osaka, Japan.
15, August 1967